





3.5 個人防護具 (PPE: personal protective equipment)




3.5.1 平常時の個人防護具




	<ul style="list-style-type: none"> ● マスク+手指衛生 <ul style="list-style-type: none"> ➢ マスクは自分からの飛沫の飛散の防止と、相手からの飛沫の吸入の防止の2通りの意味がある。 ➢ 手指衛生はどんな時も必須。
	<ul style="list-style-type: none"> ● マスク+フェイス (アイ) シールド+手指衛生 ● 入所者がマスクを装着できない場合は、職員は眼の防護を行う。 (例：食事介助や入浴介助、その他、マスクが装着できない場面)
	<ul style="list-style-type: none"> ● マスク+フェイス (アイ) シールド+手袋+ガウン+手指衛生 ● 激しい下痢をしている入所者のおむつ交換や抱きかかえての処置などがある場合は、新型コロナウイルス感染症でなくても、手袋とガウンで腕と体幹を防護する。 ● 入所者がマスクを装着できている場合、フェイス (アイ) シールドは必ずしも装着しなくてよい。

3.5.2 新型コロナウイルス感染症 (疑い) 患者の対応時の個人防護具

	<ul style="list-style-type: none"> ● いわゆる「フル PPE」 マスク+フェイス (アイ) シールド+手袋+ガウン+手指衛生 ● キャップやシューカバーなどを用いても良いが必須ではない。 ● マイクロ飛沫が大量に発生するような場面では N95 マスクを使用する (後述)。 ● 複数の患者に連続で対応する場合は、患者間で手袋の上から消毒したり、エプロンや手袋を二重にして患者ごとに交換するなど患者間での交差感染を防ぐための工夫をする。
---	---

3.5.3 個人防護具について

<p>マスク</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 口や鼻からの飛沫の吸入を防ぐ。 ● または自らの口や鼻から飛沫が飛び散るを防ぐ。 ● 医療や介護において、職員が自らを防護するためのマスクとしては、不織布マスクが良い。 ● 気管内挿管や気道吸引、激しい咳などでマイクロ飛沫（エアロゾル）が大量に発生するような場面では、職員が使用するマスクは N95 マスクが望ましい。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ N95 マスクは感染を防ぐために職員側が装着するものである。入所者には N95 マスクを着けないこと。 ● マウスシールドやフェイスシールド（だけ）では飛沫感染（吸い込むのも飛び散るのも）を防ぐ効果は乏しい。
<p>ゴーグル アイシールド フェイスシールド</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 目（の粘膜）への飛沫の飛散を防ぐ。 ● フェイスシールドやアイシールド、ゴーグルなどがある。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ それぞれは眼を覆う面積や顔への密着度が異なり、どれでなければならぬ、ということはない。入所者につかまれる、取られる、というような場合は密着性の高いゴーグルを利用したり、咳や痰などが激しく顔面への曝露が多い場合はフェイスシールドを使うなど使い分けると良い。見やすさや手軽さではアイシールドがよく使われる。 ● 相手（入所者）がマスクを装着していない場面（食事介助や入浴介助など）では職員側の目の防護は必須である。
<p>手袋</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 手指が飛沫で汚染されることを防ぐ。 ● 新型コロナウイルスは手指から感染するわけではないため、素手に飛沫が付着してもその手指で自分の目鼻口に触れなければ感染しない。 ● また手袋を着けていたとしても、飛沫が付着した手袋で自分の目鼻口に触れると感染するし、周辺の物品や環境表面を触ると汚染を広げることになる。 ● 社会福祉施設において手袋は主に排泄物やゴミなどを扱う時に装着し、それ以外では装着が必須となる機会は少ない。 ● 【重要】 同じ手袋で（交換せず）次々に物品や環境表面を触ると、手袋に付着した微生物を身のまわりに拡散させることになり、非常に危険である。 ● 手袋は適切なタイミングで交換すること、交換が難しい場合（フロア全体をレッドゾーンにするなど、手袋を着けっぱなしにせざるをえない場合）には、手袋の上から消毒することが何より重要である。

	<ul style="list-style-type: none"> ● (参考) p.7 で紹介した女性とドーナツの動画でも、仮に女性が手袋を着けていたとしても起きる結果(物品や環境を次々に汚染させる)は同じであることが分かるだろう(https://youtu.be/yToii3-p-NI)。 
<p>エプロン ガウン</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● エプロン(袖なし)は体幹の、ガウン(袖付き)は体幹と腕の汚染を防ぐ。 ● 新型コロナウイルスは体や腕から感染するわけではない。また飛沫が衣服や腕に付着してもそこから容易に感染するわけではない。 ● しかし、入所者を抱きかかえるなど密着するような場面、あるいは食事介助などで衣服が汚染する可能性が高い状況では、ガウンを装着すると良い。 ● 清掃や環境整備など、入所者に接触(=腕が汚染する)する可能性がない場合はエプロン(袖なし)を使っても良い。
<p>キャップ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 頭部や毛髪が飛沫で汚染されることを防ぐ。 ● 新型コロナウイルスは頭部から感染するわけではない。しかし飛沫による頭部や毛髪の汚染が気になる場合はキャップを装着してもよい。
<p>シューズカバー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 靴の裏に付着した飛沫が感染源になることは稀であり、基本的にシューズカバーは不要である。 ● ただしグループホームで靴を脱いだり、床を舐めたりする入所者がいるような状況では、シューズカバーや上履きの使用を考慮する。

● 個人防護具の着脱

➤ 個人防護具の正しい着脱(公益社団法人日本看護協会)

<https://youtu.be/NVPLpnX6cRM>

